



小暑



校長通信 『道標(みちしるべ)』 第18号

令和3年7月1日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



二十四節気：7月7日小暑(しょうじょ)

\*1787年(天明7年)に記(しる)された『こよみ便覧(びんらん)』では、『大暑(たいしよ) 来れるまへ(前) なればなり』とあり、本格的な夏(大暑)が来る前の季節という意味が伝えられています。

\*我が国には小暑の日から「暑中見舞い」の便りを出す習慣があり、これは立秋(りっしゅう 8月7日)までの間に出す時候の挨拶状のことで、内容は『時節柄(じせつがら) 御自愛(ごじあい) ください』などです。

令和3年度 体育祭 -今しか得られない経験や学びを取り戻し、そして止めない-

いよいよ2年ぶりの体育祭が実施されます。なぜ学校では体育祭や文化祭などの『特別活動』を行うのか、その意義と目的等について法に基づき、もう一度お伝えします。

我が国の教育理念の柱である教育基本法では教育の目的は「人格の完成をめざす」「民主的な社会の形成者を育てる」「心身ともに健康な人を育てる」などと謳(うたわ)れています。このことを目標に、全国どの地域でも、一定の水準の教育を受けられるようにするため、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めています。これを「学習指導要領(がくしゅうしどうようりょう)」といいます。「学習指導要領」では、教科等の目標や科目編成等が決められています。そのなかに、望ましい集団活動による教科外活動として「特別活動」があります。

- 1 心身の調和のとれた発達と個性の伸長(しんちょう)を図ること。
- 2 集団の一員としての自覚を深めること。
- 3 協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てること。
- 4 人間としての在り方生き方についての自覚を深めること。
- 5 自己を生かす能力を養うこと。・・・などを育むことをめざしています。

「特別活動」では、上記の目標を育成するため『ホームルーム活動』『生徒会活動』『学校行事』に分けられ、『学校行事』である体育祭・文化祭・修学旅行などは、学校生活に秩序と変化を与え、集団の一員である意識を高め、コミュニケーション能力や自助と協働を学ぶ体験的活動であり教育的効果は絶大です。

とりわけ、体育的行事である体育祭は、一致団結して目標を達成する心の成長や規律ある集団行動により、責任感や連帯感などを学びます。この経験は、生徒の皆さんの心の礎(いしずえ)となり、豊かな人生と社会で活躍するための大切な財産となります。



昭和38年度(1963)体育祭

**若商は生徒の皆さんが、今しか得られない経験や学びを取り戻し、止めることがないよう全力でサポートします**

中庭花壇にお花を植えました -花育・・・たのもししい大人へ成長するため-

植物も人間や動物などと同じように生きています。植物を観ることで、植物も精一杯生きていることを実感し、命の大切さや他者の痛みや想いを察する優しい心を育ててほしいと思います。難しいことはありません。例えば、花が折れている「ああ痛かっただろうなあ」花が枯れかけている「苦しいだろうな」・・・そのような気持ちを日常生活の中の様々な場面で、そのつど自分で作りあげていけばよいのです。

自分には厳しく相手にはやさしく、それらを訓練することで、自己が確立されていきます。そして「たのもししい大人」になる基礎が固まります。加えて、お世話をする人たち(生徒会やボランティア同好会)への感謝の気持ちも大切にしましょう。

